

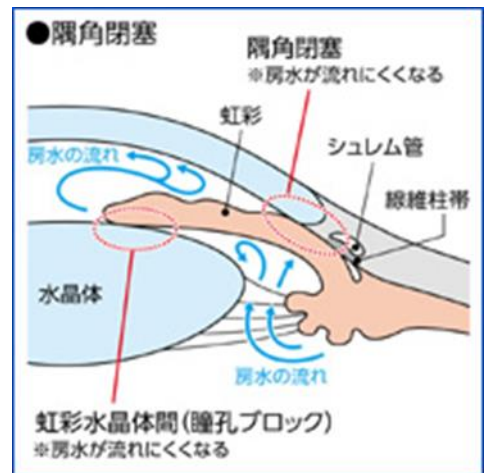
## 急性緑内障発作

## 症状

- ・目の痛み、視力低下、充血、頭痛、吐き気などが急激に起こります。通常、片眼性で、50～60歳以上の女性で遠視の人に多くみられます。
- ・一般的な慢性緑内障が、気づかないうちにじわじわと視野が狭くなっていくのに対し、急性緑内障発作は名前のとおり、突然に起こるものです。
- ・放置すれば、失明することもあります。

## 原因

- ・目の中には、血液のような役割をもった房水という液体が流れています。
- ・房水は、毛様体で分泌され、隅角のシュレム管という所で排泄されています。
- ・この房水の循環が適切に行われれば、眼圧は正常に保たれますが、元々遠視などで前房が浅く、虹彩と隅角が接触しやすいという構造に加え、年齢とともに水晶体が厚くなることで、隅角が閉塞し、急激に眼圧が上がります。
- ・眼圧上昇が長引くと視神経が障害されます。



目の水平断面図(各部の名称と房水の流れ)

## 治療

- ・早急に眼圧を下げる必要があります。目薬、飲み薬、点滴などを使って眼圧を下降させてから、レーザー治療や白内障手術をします。
- ・白内障手術で眼内レンズという自分の水晶体より厚みの薄い水晶体に交換することで、隅角が開放し、眼圧を下降させます。